

書き言葉・話し言葉コーパスデータに基づく 高頻度漢語動名詞の品詞性の再考：日本語教育の視点から

陳迪（神戸大学大学院国際文化学研究科）

Reconsideration of Part-of-Speech of Sino-Japanese Verbal Nouns Based on Written and Spoken Corpus Data : A Perspective on Japanese Language Education

Di CHEN (Graduate School of Intercultural Studies, Kobe University)

要旨

漢語動名詞は、単独で名詞として使用されるほか（例：勉強は大事だ）、「する」を付加することでサ変動詞の一部として使用されることもある（例：勉強する）。このとき、個々の漢語動名詞が主としていずれの品詞で多く使われるのかは必ずしも明確でない。そこで、本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」と「日本語日常会話コーパス」のデータを用い、動詞性判定テストと名詞性判定テストによって、重要漢語動名詞 200 種の品詞用法別頻度調査を行った。その結果、漢語動名詞は、動詞的動詞・名詞的動詞・動詞的名詞・名詞的名詞の 4 種に区分でき、それぞれ、異なる統語特性と意味特性を有することが示された。得られた知見は日本語教育にも応用が可能であると思われる。

1. はじめに

日本語には漢語動名詞 (Verbal Noun, VN) が多く存在するが、その品詞特性は極めて複雑で、単語間に名詞性や動詞性の濃淡の差が存在する。漢語動名詞は、一般に、名詞と動詞の両方の性質を備えた語群とされる (小林, 2004)。名詞であれば、格助詞を介在させて「漢語 VN+を／が+V」と言え、動詞であれば「漢語 VN+する」と言えるはずだが、実際には、語によって、許容度の差がある。以下の例を見てみよう (すべて筆者による作例)。

- (1) *能力の【発揮】をしている [名詞的用法]
- (2) 能力を【発揮】している [動詞的用法]
- (3) 心の【準備】が整いました [名詞的用法]
- (4) *心を【準備】しました [動詞的用法]
- (5) 日本語の【学習】を頑張ってください [名詞的用法]
- (6) 日本語を【学習】したことがありますか [動詞的用法]

このことは、語によって、名詞的用法と動詞的用法の両方を許容する場合、名詞的用法のみを許容する場合、動詞的用法のみを許容する場合とがあることを示す。

日本語教育の観点から見た場合、中国人学習者は漢語の知識を有するが、それでも、漢語動名詞の習得は難しい。以下は「日本語学習者作文コーパス」(林・李・宮岡・柴崎・趙, 2012)における中国人学習者の作文実例である。なお、修正例はコーパス開発者が付与したものである。

- (7) 自分の会話力 (→力) やイヤリング (→ヒアリング) が【上達】になるだ (→上達す

る)と思う。(CG038)

(8) いま、ぼくは日本語 N1 試験を【準備】しています(→の準備をしています)。(CG050)

学習者が、漢語動名詞の使用上の問題に直面した場合、教科書や辞書に頼ることとなるが、個々の漢語動名詞の品詞特性については、十分な情報が示されていないのが現状である。こうしたそこで、本研究では、主要な漢語動名詞について、その品詞特性を調査し、学習者向けの指導モデルを考えることを目指したい。

2. 先行研究における漢語動名詞の品詞性の判定

漢語動名詞の品詞用法については様々な研究が行われてきた。とくに重要な研究として、小林(2004)がある。同研究は、漢語動名詞が動詞的性質と名詞的性質の両方を有することを指摘する。時間表現内で使用可能で(「目的語+[を/に]+VN+[中/後](に)」-資料を入力中に、群馬方言を調査後)、尊敬語を付加できる(「お/ご~になる」「お/ご~ください」-ご訪問になる、ご検討ください)点では動詞的である。また、格助詞を付けて単独で主語や目的語として使用可能で(勉強が~、勉強を~)、用途を表す「~用」を付加できる(料理用の酒、受験用の本)点では名詞的である。なお、漢語動名詞の名詞用法は、一般の名詞と完全には同じではない。第1に、普通の名詞は「~する」の形で使えないが、動名詞は「する」をつけてサ変として使用できる(*騎手する/騎乗する)。第2に、普通の名詞には「人(ジン)」が付加されるが、動名詞には「人(ニン)」が付加される(外国人(ジン)/管理人(ニン))。

このほか、多くの研究が、近代日本語や現代日本語における漢語動名詞の使用実態を調査してきた。永澤(2010)は、『太陽コーパス』や新聞用例を使い、二字漢語の品詞用法を調査した。間淵(2015)は、『太陽コーパス』と『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』を用い、サ変用法を調査した。間淵(2016)は、『明六雑誌コーパス』、『国民之友コーパス』、『太陽コーパス』、『近代女性雑誌コーパス』、BCCWJ 出版サブコーパスを使い、従前の分析を拡張した。田辺・中條・船戸(2012)は、独自に作成した日英対訳の新聞コーパスを用い、漢語動名詞のコロケーションを調査した。田辺・中條(2014)は、同じコーパスと BCCWJ の図書館・書籍サブコーパスを比較して、漢語動名詞を調査した。李(2014)は、BCCWJ のジャンル別データを用いて、主な漢語動名詞の出現パターンや言語特性を調査した。

各研究は、漢語動名詞の品詞性の議論にあたり、小林(2004)の動詞・名詞の判定基準を基本にしながら、それぞれの研究目的に応じて、判定基準の工夫を試みている。以下は、各研究で採用された判定基準をまとめたものである。

表1 先行研究における動詞用法・名詞用法の判定基準

先行研究	動詞用法判定基準	名詞用法判定基準
小林(2004)	~する・~中/後(に)・ご~になる/くださる	~〈格助詞〉・~用
永澤(2010)	~す・~する	~〈格助詞〉・~〈係助詞〉・~〈副助詞〉
間淵(2015)	~する・~出来る	
間淵(2016)	~為る・~出来る・~致す・~奉る・~仕る・~遊ばす・~下さる・~なさる・	~〈格助詞〉・~〈係助詞〉・~〈副助詞〉・~〇

	～申す	
田辺他(2012)	高頻度コロケーションでサ変動詞用法が多いもの	高頻度コロケーションで名詞用法が多いもの
田辺他(2014)	～する・～いたす・～なさる・～できる	動詞用法以外のすべての品詞用法
李(2014)	～する	～をする

こうした先行研究の判定基準にはいくつかの課題もある。1 点目は、各研究が採用した動詞用法の判定基準にずれが見られることである。たとえば、「～する」(活用形含む)を動詞用法の判定基準とすることはすべての研究に共通しているが、間淵(2015)は「～出来る」を、間淵(2016)と田辺・中條(2014)は「～出来る」と「～する」の敬語形をそれぞれ基準に追加している。2 点目は、名詞性を直接的に判断した研究が極めて少ないことである。たとえば、田辺・中條(2014)では、動詞用法以外のすべての品詞用法を名詞用法と仮認定している。これに対し、間淵(2016)は、サ変率を根拠として動詞性の強さと名詞性の強さ(あるいは他の品詞性)を議論する工夫を行っているが、名詞性を直接に判定したわけではない。3 点目は、言語学で提唱されてきた各種の動詞用法・名詞用法の判定基準を網羅的に調査した研究が少ないことである。今回の先行研究の概観の限りにおいては、小林(2004)で報告された判定基準をすべて用いて分類を行った研究はなかった。

3. リサーチデザインと手法

3.1 研究目的と RQ

本研究では、重要漢語動名詞を対象として、その品詞性を調査・分類し、分類群ごとの統語的・意味的特性の調査を行うことで、学習者用の指導モデル開発の手掛かりを得ることを目指す。品詞性の判定にあたっては、先行研究で言及された品詞判定基準を網羅的に取り込んだ新しい動詞性判定テストと名詞性判定テストを作り、動詞性・名詞性をそれぞれ独立して評価していく。上記をふまえ、以下の3つのリサーチクエスチョン(RQ)を設定した。

RQ1 動詞性・名詞性が高い漢語動名詞はなにか。

RQ2 動詞性・名詞性を統語的に評価した場合、漢語動名詞はどのように区分され、各区分にどのような統語的特性があるか。

RQ3 各区分にどのような意味特性があるか。

3.2 データ

本研究では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(Balanced Corpus of Contemporary Written Japanese, BCCWJ)と「日本語日常会話コーパス」(Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC)を利用する。BCCWJは、国立国語研究所が中心となって開発した現代日本語の書き言葉の大規模コーパスである。BCCWJは「新聞」「雑誌」「書籍」「白書」「教科書」など、13種の大ジャンルに区分されており、ジャンルによってはさらに詳細な下位区分がある。CEJCは、国立国語研究所が開発した話し言葉コーパスで、40名の調査協力者の3か月の自然会話200時間分の会話データを収録している。CEJCの会話データは、形式別に「雑談」「用談・相談」「会議・会合」「授業・レッスン」の4ジャンルに区分されている。本研究で使用しているのは2022年の本公開版である。両コーパスとも、国立国語研究所が開発・運営するコーパス検索インタフェースである「中納言」上でアクセスする。

2つのコーパスには、様々なジャンルデータが含まれるが、本研究では、BCCWJの13ジャンルのうち、体言止めの多用など、特殊な品詞使用がなされている可能性のある「韻文」を除く12ジャンルと、CEJCの4ジャンルを組み合わせた16種の日本語ジャンルデータを資料として、重要漢語動名詞200種の動詞的用法と名詞的用法の頻度を調査する。

3.3 手法

3.3.1 調査対象語

調査する対象語の範囲は、BCCWJの65変種およびCEJCの場面別7変種（「室内」「職場」「自宅」「施設」「交通機関」「学校」「屋外」）をあわせた72変種から均衡的に抽出された重要漢語動名詞200種である。

表2 重要漢語動名詞（重要度順）

利用	実施	使用	対応	紹介	確認	増加	発生	表示	作成	説明	参加	推進
発表	存在	理解	表現	期待	活用	注意	設定	設置	開催	減少	変化	購入
提供	比較	検討	結婚	選択	指定	展開	判断	入力	用意	検索	質問	確保
工夫	実現	評価	計算	開始	変更	発見	登録	注目	拡大	規定	導入	決定
相談	完成	指摘	勉強	構成	提出	移動	改善	保存	整備	解決	開発	整理
考慮	低下	安定	促進	維持	把握	登場	上昇	予想	成立	終了	反映	成功
形成	発展	販売	記載	報告	採用	記録	重視	発揮	意識	安心	認識	処理
撮影	配慮	練習	意味	削除	実行	生活	該当	集中	主張	達成	心配	無視
活躍	交換	連絡	観察	成長	分析	充実	強化	対処	継続	掲載	設立	適用
強調	経験	活動	失敗	支援	想像	努力	発達	提案	追加	発行	取得	学習
独立	調整	電話	更新	増大	卒業	加入	推移	吸収	代表	貢献	回答	我慢
調査	発売	一致	接続	派遣	希望	分解	保護	出席	分類	指導	反応	納得
悪化	解消	運転	印刷	進行	相当	準備	経過	違反	出品	反対	記入	感染
提示	証明	落札	到着	防止	放送	否定	演奏	改正	請求	応援	入院	出発
苦勞	訪問	通過	死亡	収集	表明	注文	策定	支給	制定	就職	批判	感謝
施行	所属	支配	共有	合格								

なお、これは、先に陳（2022）で提案した200種を改訂したものとなっている。以下に、両研究における抽出過程の違いを記載する。

表3 重要漢語動名詞の抽出方法

	陳（2022）	今回
対象ジャンル	BCCWJの65変種+CEJCの7変種=72変種	
CEJCデータ	モニター公開版（50時間）	本公開版（200時間）
抽出条件	語種：「漢」 品詞大分類：「名詞」 品詞小分類：「普通名詞-サ変可能」 後方共起：「語彙素読み」が「スル」	語種：「漢」 品詞大分類：「名詞」 品詞小分類：設定なし 後方共起：「語彙素読み」が「スル」
抽出過程	(1) 該当漢語数が10未満の4変	(1) 該当漢語数が20未満の1変

種を除く (2) 68 変種の上位 10 語、延べ 680 語を抽出 (3) 異なり 214 語を抽出 (4) 重要度 (平均頻度×レンジ比率) で並べ替え、上位 200 語を決定	種を除く (2) 71 変種の上位 20 語、延べ 1420 語を抽出 (3) 異なり 363 語を抽出 (4) 重要度 (平均頻度×レンジ比率) で並べ替え、上位 200 語を決定
---	--

2 種の処理の違いについて概略する。まず、CEJC データについては、陳 (2022) の作業段階ではモニター公開版を使っていたが、今回の処理では本公開版を使用した。

次に、抽出条件についてであるが、陳 (2022) では「サ変可能」とあるもののみを対象とした。しかし、検証の結果、形態素解析で「サ変可能」と分類されていない語の中にも、サ変化している例が確認された (例: 「それはお母さんを安心させるためでもあるんだよ」 (PB59_00148)、「こうした雰囲気的な情感に浸ることが哲学することなのではない。」 (PM21_00626))。そこで、今回の処理では、漢語動名詞をより網羅的に抽出するため、名詞の小分類をあえて設定せずに単語抽出を行った。なお、範囲を広げた新しい処理では、漢語動名詞でありうるものを広く拾える一方、研究対象である二字漢語動名詞以外のものまで拾ってしまうという問題もある。たとえば、副詞と「する」が結びついた「(騒音を) 結構する」、助数詞とする「(二) 時間する (と)」、二字漢語以外を含む「(一) 段落する」など、である。そこで、抽出されたすべての連鎖について、再度、「Web 茶まめ」で形態素解析を行い、漢語成分の品詞を確認した上で、対象以外ものは除去する処理を加えた。

以上の処理により、陳 (2022) で提案した重要漢語 200 語のうち、約 62 語が入れ替わった。具体的には、「出土」や「定植」などがはずれ、代わりに「安心」や「調査」などが加わった。

3.3.2 動詞性・名詞性判定テスト

漢語動名詞の動詞性・名詞性は、何らかのテストによって決定される必要がある。先行研究では、様々なテストが考案されてきたわけであるが、本研究では、過去の研究で採用された項目を幅広く取り込み、以下のテスト内容を決定した。両テストはそれぞれ 3 つの判定基準を内包する。

表 4 本研究の動詞性・名詞性判定テストの項目

	動詞性判定テスト	名詞性判定テスト
基準 1	「スル」付加 (～する (敬語形含む)、～出来る)	格助詞付加 (格助詞「が・を・に…」の後続)
基準 2	時間表現付加 (～中、～後)	係助詞付加 (係助詞「は・も…」の後続)
基準 3	尊敬表現化 (ご～になる/くださる)	「用」付加 (～用)

なお、本研究では、過去の研究で扱われた基準を広く取り込むことを目指したが、動詞性判定テストにおける「奉る・仕る・遊ばす・申す」後続基準と、名詞性判定テストにおける副助詞後続基準は採用しなかった。この点について説明したい。

まず、間淵 (2016) が動詞性判定で採用した「奉る・仕る・遊ばす・申す」後続基準につ

いてであるが、BCCWJを検索したところ、「漢語 VN+奉る」が4例、「漢語 VN+仕る」が63例、「漢語 VN+遊ばす」が27例、「漢語 VN+申す」が28例、確認されたものの、多くは現代日本語としては違和感の残るものであった。下記は用例の一部である。

- (9) 一万石ほど、ご返納【奉る】つもりはないか（出版・書籍、PB29_00071、『黒船擾乱』、笹沢左保（著））
- (10) 慶喜が、薩土越宇の四藩をふくむ諸藩の意見を「取捨【仕り】候は、私の任に御座候」と言い放ったことである（図書館・書籍、LBs2_00093、『徳川慶喜』、家近良樹（著））
- (11) このたびは上公御隠居【遊ばされ】、誠に恐れ入った次第。（図書館・書籍、LBf2_00008、『幕末の水戸藩』、山川菊栄（著））
- (12) ほんとうの親でもない私が、これほど一生懸命にお世話【申して】、あなたを大切な人と思っているのが（特定目的・ベストセラー、OB2X_00146、『円地文子の源氏物語』、紫式部（著）/円地文子（訳））

(9)～(12)は、いずれも、歴史小説や、歴史をテーマにした文献内での用例であり、狭義の現代日本語の用例としては特殊なものだと思われる。この基準を加えた場合、他の基準のウェイトが低減すると思われることから、今回は採用しないこととした。

次に、永澤（2010）および間淵（2016）が名詞性判定で採用した、（漢語が補語となる場合の）副助詞後続基準についてであるが、同じく、BCCWJで検索したところ、以下のように、副助詞が名詞ではなく動詞に後続する事例がいくつか確認された。

- (13) 形を工夫し【さえ】すれば、肉まんだって、ほら、このとおり。（出版・書籍、PB55_00045）
- (14) 民訴法百六十九条（新百三条）などを準用する【のみ】で（図書館・書籍、LBm3_00048）
- (15) ただ、それがこの世のどこかに存在する【だけ】でいい。（図書館・書籍、LBr7_00065）

この基準を加えた場合、上記のような用例が分析対象から外れてしまうため、これも今回は採用しないこととした。

3.3.3 手順

まず、RQ1では、本研究で決定した判定基準に基づき、「中納言」上で、以下の検索条件で検索を実施した。

表5 各品詞判定基準の検索条件

	動詞性判定テスト	名詞性判定テスト
基準1	「スル」付加（～する（敬語形含む）、～出来る）→ キー：語彙素が漢語 VN、後方共起：語彙素が“ <u>為る 出来る 致す 為さる</u> ”	格助詞付加（格助詞「が・を・に…」の後続）→ キー：語彙素が漢語 VN、後方共起：品詞が“助詞-格助詞”
基準2	時間表現付加（～中、～後）→ キー：語彙素が漢語 VN、後方共起：語彙素が“ <u>中 後</u> ”	係助詞付加（係助詞「は・も…」の後続）→ キー：語彙素が漢語 VN、後方共起：品詞が“助詞-係助詞”

基準 3	尊敬表現化(ご~になる/くださる) → キー: 語彙素が漢語 VN、前方共起: 語彙素が“御”、(2)後方共起 1:語彙素が“に”、後方共起 2: 語彙素が“成る” (2)後方共起:“下さる”	「用」付加(~用)→ キー: 語彙素が漢語 VN、後方共起: 語彙素が“用”
------	--	--

順位化の方法として、まず、第1基準に関して、個々の語について、全用例数と、そのうち、当該基準を満たす用例数を求め、基準合致率を計算する。そして、基準合致率の高いものから、対象語全体を並べ替え、順位を決定する。その後、第2基準、第3基準について、同じ作業を繰り返す。最後に、個々の語について、3つの基準に基づく合致率順位の和を計算する。そして、順位和の低いものから全体を並べ替え、最終的な順位を決定する。ここでは、「掲載」を例に説明したい。この語は、動詞性判定テストにおいて、第1基準の合致率は65.99%で全200語中の順位は16位であった。また、第2基準の合致率は1.4%で順位は28位であった。第3基準の合致率は0%で順位は65位であった(※0%の語は多数あるため、すべて65位となる)。これらの順位和は16+28+68=109となる。最後に、順位和で200語すべてを並べ替え、最終順位(この場合は6位となる)が決定される。

RQ2では、重要漢語動名詞の品詞用法を区分するため、200種の漢語動名詞を第1アイテム、各合致率を第2アイテムとする対応分析を実施する。対応分析とは、頻度表における行・列の関係を組み替え、頻度表に含まれる情報を少数の成分(次元)にまとめることで、行・列を整理する多変量解析手法である。対応分析によって、データが視覚的に散布図上に布置することができ、直観的に関係を解釈することが可能になる。また、対応分析において、変数とケースの区別は行わず、列方向に入るデータの集合を第1アイテム、行方向に入るデータを第2アイテムと呼ぶ(石川他、2010)。

RQ3では、各区分に含まれる各漢語動名詞の意味特性を『分類語彙表』(増補改訂版)に基づき調査する。『分類語彙表』では、体・用・相の各類の中に、大きな意味的まとまりとして「抽象的關係」、「人間活動の主体」、「人間活動・精神および行為」、「生産物及び用具」、「自然物及び自然現象」といった5つの部門を設け、各部門の内部は「事柄」、「類」、「存在」などのような中項目に分かれた。さらに同じ中項目に属する単語はいくつかのグループ(段落)に細分された。本研究では、表6に示したように、部門を大分類、段落を小分類として採択する。

表6 『分類語彙表』の枠組み

大分類	小分類
抽象的關係	理由・目的・証拠、異同・類似...
人間活動の主体	男女、夫婦、相手・仲間...
人間活動・精神および行為	感覚、表情・態度、学習・習慣・記憶...
生産物及び用具	産物、資材・ごみ、飾り...
自然物及び自然現象	光、気象、物質の変化...

ここで注意すべきは、漢語動名詞が多義である場合の扱いである。本研究では、『デジタル大辞泉』(以下、『大辞泉』)(ジャパンナレッジ版、2022年7月に検索)における当該語の第1語義の意味分類を選ぶことにする。たとえば、「反応」には、(1)ある働きかけに応じて起こる物事の動き、(2)

生体が刺激に応じて活動を起こすこと、(3)物質の相互作用によって別の物質を生じること、の3つの語義がある。また、『分類語彙表』における「反応」の意味特性は、「抽象的關係－作用・変化」、「人間活動・精神および行為－感覚」、「自然物及び自然現象－生理」、「自然物及び自然現象－物質の変化」の4種である。この場合、第1語義に合致するものとして、「抽象的關係－作用・変化」を選ぶ。

4. 結果と考察

4.1 RQ1 動詞性・名詞性が高い漢語動名詞

2種の品詞判定テストを行った結果、各品詞判定基準の合致率の順位和の上位20位の漢語動名詞、すなわち動詞性が高い漢語動名詞と名詞性が高い漢語動名詞がそれぞれ抽出された。

表7 動詞性が高い漢語動名詞

動詞性 順位	高動詞 性漢語	合致率			順位			
		スル	時間	尊敬	スル	時間	尊敬	順位和
1	確認	0.6568	0.0059	0.0128	18	54	8	80
2	活躍	0.5704	0.0434	0.0008	40	7	33	80
3	到着	0.5729	0.0265	0.0002	39	10	46	95
4	検討	0.5058	0.0245	0.0014	66	11	24	101
5	記入	0.6177	0.0035	0.0066	27	71	10	108
6	掲載	0.6599	0.0140	0.0000	16	28	65	109
7	開催	0.5979	0.0236	0.0000	32	13	65	110
8	提出	0.6438	0.0031	0.0020	20	73	19	112
9	成立	0.6038	0.0198	0.0000	30	17	65	112
10	通過	0.6550	0.0133	0.0000	19	30	65	114
11	購入	0.5423	0.0077	0.0013	46	46	25	117
12	出席	0.5892	0.0027	0.0061	35	76	11	122
13	入力	0.5952	0.0064	0.0003	33	52	42	127
14	使用	0.5060	0.0105	0.0012	65	38	26	129
15	実施	0.6000	0.0108	0.0000	31	34	65	130
16	参加	0.4452	0.0090	0.0132	90	43	7	140
17	考慮	0.8336	0.0035	0.0000	6	70	65	141
18	完成	0.5223	0.0150	0.0000	56	26	65	147
19	表明	0.6893	0.0014	0.0005	13	94	41	148
20	採用	0.5888	0.0047	0.0002	36	60	54	150

表 8 名詞性が高い漢語動名詞

名詞性 順位	高名詞 性漢語	合致率			順位			
		格助詞	係助詞	「用」	格助詞	係助詞	「用」	順位和
1	練習	0.3707	0.0522	0.0099	19	23	2	44
2	記録	0.3693	0.0615	0.0038	21	16	12	49
3	活動	0.5506	0.0581	0.0011	3	21	29	53
4	生活	0.4924	0.0436	0.0059	7	41	6	54
5	連絡	0.3645	0.0548	0.0025	24	22	15	61
6	電話	0.4965	0.0366	0.0019	6	52	18	76
7	回答	0.3781	0.0748	0.0004	16	8	55	79
8	準備	0.3979	0.0604	0.0003	14	18	64	96
9	勉強	0.3369	0.0604	0.0006	32	19	47	98
10	規定	0.5557	0.0889	0.0000	2	3	94	99
11	分析	0.3287	0.0434	0.0014	35	42	24	101
12	放送	0.2858	0.0441	0.0055	53	39	9	101
13	反応	0.4590	0.1122	0.0000	10	1	94	105
14	努力	0.5427	0.0704	0.0000	4	10	94	108
15	意味	0.5695	0.0657	0.0000	1	14	94	109
16	変化	0.4871	0.0801	0.0000	9	7	94	110
17	交換	0.2849	0.0403	0.0032	54	45	13	112
18	意識	0.5160	0.0657	0.0000	5	13	94	112
19	評価	0.3772	0.0728	0.0001	17	9	88	114
20	経験	0.4916	0.0674	0.0000	8	12	94	114

では、本研究の枠組みによって、先行研究に対してどの程度異なる結果が得られたのであろうか。下記は、本研究で得られた上位 5 語をサンプル語として、それらの順位が、先行研究（田辺他、2011）の動詞性判定（サ変率のみに基づく判定）および名詞性判定（動詞比率から間接的に推定した名詞比率に基づく判定）基準あればどのようになっていたかを示した結果である。

表 9 本研究と先行研究の動詞性・名詞性判定基準の比較

動詞順位の変動例			名詞順位の変動例		
語	本研究の順位	サ変率に基づく 5 語の順位	語	本研究の順位	推定名詞比率に基 づく 5 語の順位
確認	1	18	練習	1	28
活躍	2	40	記録	2	12
到着	3	39	活動	3	3
検討	4	66	生活	4	1

記入	5	27	連絡	5	29
----	---	----	----	---	----

上記に示すように、従来の基準と今回の基準で、「活動」以外の個々の語の順位が大きく変動することが示された。動詞性判定については、間淵（2015）も指摘するように、サ変率だけで、動詞性（あるいは名詞性）の強さを計ることは問題が多いと言えるだろう。また、名詞性判定については、動詞性比率のみを直接に求め、名詞性比率はその残余とみなす間接推定法にも問題があると言えるだろう。

4.2 RQ2 漢語動名詞の分類と区分ごとの統語特性

200種の漢語動名詞を第1アイテム、6つの品詞用法判定基準の合致率を第2アイテムとする対応分析を実施した結果、以下のような散布図が得られた。次元1と次元2の寄与率はそれぞれ57.8%と25.2%となり、全体の約83%が説明できる。なお、時間表現付加は第3象限において他と離れた位置に布置されているため、別途記載している。

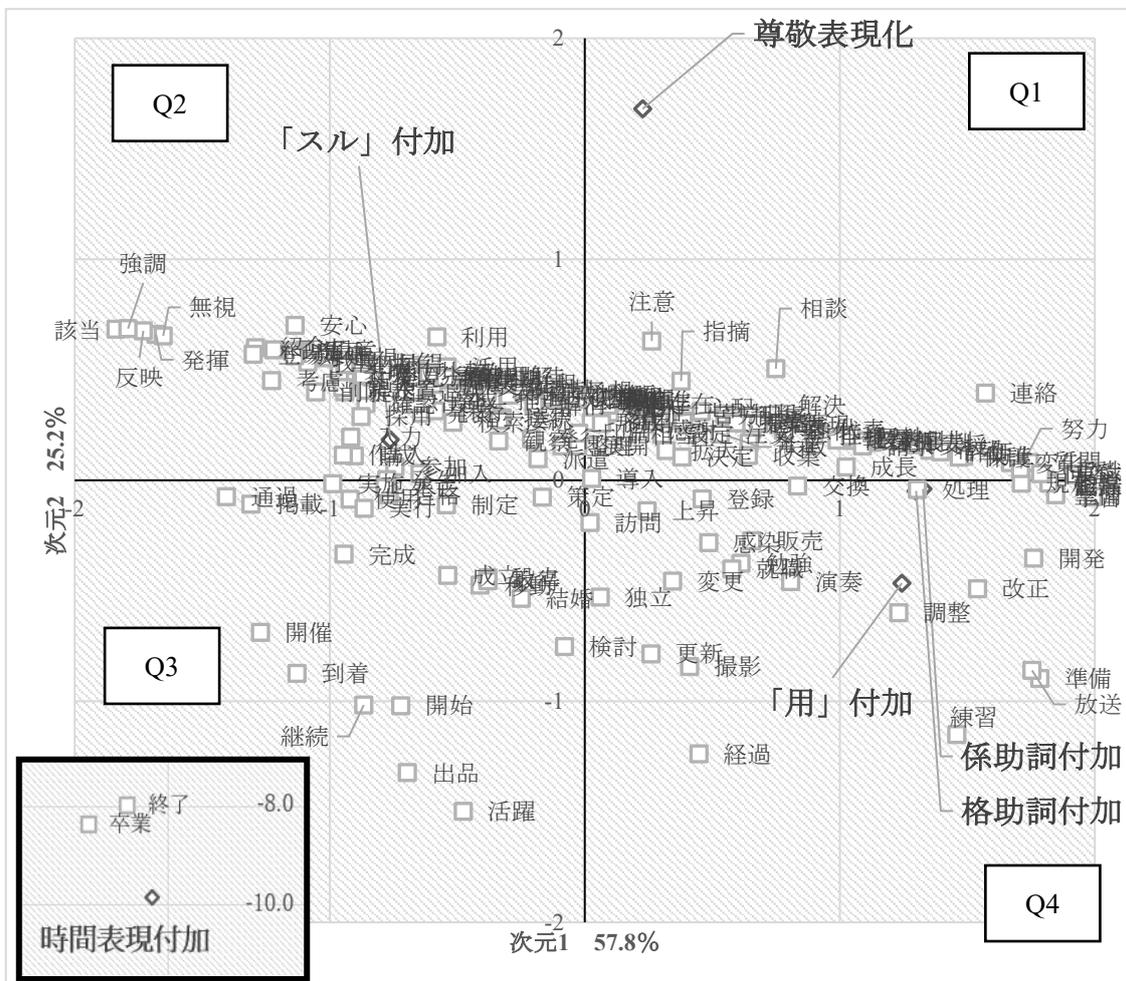


図1 対応分析の結果

全体は、2つの次元（軸）によって4つの象限にわかれる。判定基準を手掛かりに考えると、第1象限（Q1）は尊敬表現化と関連が深い。尊敬表現は一般には動詞標識とされるが、

「ご指摘になる」という用例に見られるように、漢語その自体を考えれば本質的には名詞的な語群であるため、動詞的性質を包含した名詞群（動詞的名詞）と言える。第2象限（Q2）は、「強調する」「無視する」など、「スル」付加と関連が深い。これはもっとも典型的な動詞性を持つ動詞群（動詞的動詞）と言えよう。第3象限（Q3）は、「進行中」「卒業後」など、時間表現付加と関連する。時間表現は一般には動詞標識とされるが、実際には、「進行」や「卒業」という内容は、話者が当該の行為の外の視点に立ち、行為を客体化して呼称しているもので、名詞的な動詞群（名詞的動詞）と言える。第4象限（Q4）は、「運転が」「準備は」「練習用」など、格助詞・係助詞・「用」付加と密接に関連しており、典型的な名詞群（名詞的名詞）と言える。これらを本研究では、新しい動名詞の区分として提案したい。

表 10 動詞用法判定テストと名詞用法判定テストを統合した新しい品詞分類

品詞区分	象限	主な統語的特性	漢語動名詞
I 名詞的名詞	Q4	格助詞・係助詞付加、一部は「用」後続できる	生活、調査、電話、運転、経過、練習、準備、放送、撮影、更新、調整、独立、改正、演奏、変更、活動、就職、勉強、開発、感染、販売、訪問、上昇、登録、学習、整備、意味、処理、交換、記録、規定、指導（32語）
II 動詞的名詞	Q1	尊敬表現付加	注意、相談、指摘、連絡、確保、構成、対応、説明、悪化、分類、促進、支配、感謝、存在、増大、心配、安定、相当、苦勞、増加、判断、解決、配慮、失敗、形成、提案、認識、適用、充実、表現、代表、計算、強化、注文、設定、推移、反対、違反、報告、改善、工夫、批判、分析、発展、発達、支援、請求、希望、拡大、評価、収集、防止、決定、保護、質問、変化、成長、努力、意識、回答、反応、経験、導入（63語）
III 名詞的動詞	Q3	時間表現付加	卒業、終了、発売、入院、進行、施行、落札、活躍、出品、開始、継続、到着、検討、開催、結婚、移動、取得、設立、成立、完成、実行、制定、掲載、使用、策定、通過、合格、死亡、実施（29語）
IV 動詞的動詞	Q2	「スル」付加(敬語形・可能形含む)	安心、強調、該当、反映、發揮、無視、利用、紹介、否定、用意、提示、集中、登場、対処、重視、我慢、共有、納得、把握、活用、比較、一致、表明、吸収、記載、理解、分解、発見、期待、維持、注目、提供、考慮、実現、出席、証明、所属、支給、記入、貢献、減少、設置、予想、表示、提出、削除、追加、想像、主張、指定、応援、成功、達成、推進、低下、出発、確認、解消、保存、発表、採用、選択、接続、検索、印刷、入力、発行、観察、整理、展開、作成、購入、派遣、参加、加入、発生（76語）

以上の4つのタイプは、動詞性の強弱の点で、段階的な位置づけにある。4つのタイプの

関係性と、全 200 種に占める各々の比率をまとめると、以下のようになる。

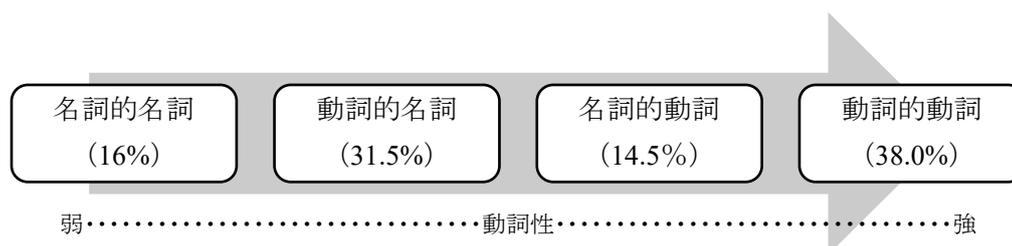


図 2 動詞性・名詞性の連続体モデル

上記より、動名詞が名詞と動詞にまたがる性質を有すること、いわゆる名詞と認定されるものは 2 割未満にとどまることが確認された。以下、BCCWJ と CEJC における具体的用例を見る。(20) ～ (21) は名詞的名詞、(22) ～ (23) は動詞的名詞、(24) ～ (25) は名詞的動詞、(26) ～ (27) は動詞的動詞の実例で、用例中、当該の漢語動名詞は【】記号で示す。

- (20) 私たちの日常生活でも、先にふきんや台所スポンジ、野菜類の細菌汚染について見たように、無数ともいえる細菌類に囲まれた【生活】をしています。(BCCWJ、図書館・書籍、LB14_00044)
- (21) と相澤さん座談会でイイッティ最初の大島の【調査】を挙げていたんですけど(CEJC、会議・会合、W001_001b)
- (22) お忘れ物なさいませぬようにご【注意】ください(CEJC、雑談、K012_007a)
- (23) この辺、何か郵政大臣は、文部省なり科学技術庁あたりと御【相談】になって、やるべき方向を見出すべきだと思うんですね。(BCCWJ、特定目的・国会会議録、OM21_00010)
- (24) その【卒業】後どうゆう活動されてるか(CEJC、会議・会合、T003_017)
- (25) ☆チケットは、市民会館・ぴあ・ローソン・クラモトレコードで【発売】中！(BCCWJ、特定目的・広報紙、OP77_00002)
- (26) 発生予防対策を【強調】したが、実際問題として発生を完全に予防することが困難である(BCCWJ、特定目的・白書、OW1X_00575)
- (27) ゴールデンウィークぐらいまではさ【安心】できない(CEJC、雑談、C002_008)

まず、(20) と (21) における「生活」と「調査」は、格助詞「を」をつけて、動詞「する」「挙げる」の目的語として機能しているので、もっとも典型的な名詞用法であると言える。次に、(22) と (23) における「注意」と「相談」は、いずれも尊敬表現に入ったことで、動詞的性質を備わっている名詞であると考えられる。(24) と (25) における「卒業」と「発売」は、時間表現である「中／後」が付加できることで、動詞性を有するが、「卒業」は「その」という連体修飾語で修飾することができることで、このような漢語動名詞は名詞性も備わっていると考えられる。(26) と (27) における「強調」と「安心」は、「する」あるいは可能形である「できる」をつけて述語として機能していることで、もっとも典型的動詞用法であると言える。

こうした用例からも明らかなように、同じ漢語動名詞であっても、その用法には多様性が

ある。品詞特性の観点から漢語動名詞を分類することで、そうした用法理解の手掛かりが得られるであろう。

4.3 RQ3 漢語動名詞の区分ごとの意味特性

前節で、漢語動名詞を品詞性の観点から4区分に分けた。では、各グループには意味的な違いはないのであろうか。この点を確認するため、『分類語彙表』に基づき、意味の大分類・小分類で整理したところ、以下の結果を得た。なお、大分類に関して、「人間」は「人間活動・精神および行為」を、「抽象」は「抽象的關係」を、「自然」は「自然物および自然現象」を示す。小分類については上位3種を選び、筆者の判断で、変化・認知・活動という3つのレベルに区分して整理する。

表 11 品詞区分別漢語動名詞の意味分類

名詞的 <----->		動詞的	
I 名詞的名詞	II 動詞的名詞	III 名詞的動詞	IV 動詞的動詞
大分類			
人間 (72%)	人間 (60%)	抽象 (55%)	人間 (66%)
抽象 (25%)	抽象 (38%)	人間 (41%)	抽象 (32%)
自然 (3%)	自然 (2%)	自然 (3%)	自然 (2%)
小分類 (上位3種、数字は順位を示す)			
レベル1: 変化			
1. 作用・変化 (例: 働く、反応、変える、反発、転移)【 抽象的变化 】	1. 作用・変化 (例: 働く、反応、変える、反発、転移)【 抽象的变化 】 3. 増減・補充 (例: 増大、減少、加熱、加える、付ける)【 増減的变化 】	1. 成立 (例: 完成、熟成、仕上げ、出来上がり、独立)【 変化の完遂 】	φ
レベル2: 認知			
1. 学習・習慣・記憶 (例: 習う、練習、磨く、学習、独学…)【 学習的認知 】	2. 注意・認知・了解 (例: 注意、用心、配慮、気づき、注目)【 一般的認知 】	φ	1. 注意・認知・了解 (例: 注意、用心、配慮、気づき、注目)【 一般的認知 】
レベル3: 活動			
2. 書き (例: 書写、執筆、表記、登録、記載)【 記録的活動 】 2. 技術・設備・修理 (例: 設ける、準備、飾る、処理、片付ける)【 整備的活動 】	φ	2. 動き (例: 始動、主動、駆動、運動、波動)【 一般的活動 】 2. 行為・活動 (例: する、受ける、取り組む、振る舞う、行動)【 一般的活動 】	2. 見る (例: 発見、拝見、閲覧、観察、見回す)【 視覚的活動 】

注：例は『分類語彙表』から引用したものである。

大分類について言うと、一部のずれはあるものの、人間>抽象>自然というパターンは共通であるように考えられる。むしろ、重要なのは小分類である。表 11 からわかるように、上位 3 種の小分類に注目すると、I からIVへ、変化、認知、活動という 3 つのレベルにおいて意味が変化している可能性が認められる。

まず、第 1 レベルについて、グループ I では、「働く」や「変える」のような抽象的变化の含意を持つ語が多い。グループ II では、抽象的变化を含意する語のほか、「増大」や「減少」のような増減を含む変化を表す語も多い。グループ III では、「完成」や「熟成」のような変化の完遂を表す語が多い。また、グループ IV の上位 3 種の小分類には変化を表す語がないが、すでに述べたように、4 つの区分は動詞性・名詞性の強弱によって連続体モデルになることで、 ϕ は一つ前のグループの状態が継続しているものと考えられ、グループ IV は完遂した状態の継続を含意するものと言える。実際、グループ IV では変化の完遂を含意する漢語動名詞 2 語が出現している（「作成」「設置」）。これより、I からIVへ、「一般的で抽象的变化→増減を含む抽象的变化→変化の完遂→（変化の完遂）」のような意味が変化している可能性があると思われる。BCCWJ におけるそれぞれの区分での漢語動名詞の具体的用例を見てみよう。なお、当該語は【】記号で示し、当該語が所属する品詞区分は [] で示す（以下同）。

- (28) 結婚で改姓のある場合は、できるだけ早く知らせてもらえるよう、社員に提示しています。うちの場合は、社内の書類の改姓手続きだけなら、大した作業ではありませんが、給料の振込の際、本店への電算処理の依頼と、本人の口座の名義の【変更】との兼ね合いがあるので、そこだけは変更時期に注意を要します。（特定目的・知恵袋、OC11_01452）
[名詞的名詞]
- (29) 業種別では、デジタル家電販売が好調を継続しているほか、アジア向け輸出の【増加】などにより自動車も堅調で、大企業の製造業を中心に収益が改善。（出版・新聞、PN4d_00029）[動詞的名詞]
- (30) このダムへの工事は、地元の農夫が土を運び、あるいは鳶の仕事まで身につけて【完成】させた。大正十五（千九百二十六）年三月に起工した工事は、昭和五（千九百三十）年に【完成】した。（図書館・書籍、LBe9_00024）[名詞的動詞]
- (31) 確認事務を受託した法人は、警察署長の指示に基づき、巡回計画書を【作成】し、警察署長の認可を受けた上で、計画に従い、駐車監視員を巡回させます。（出版・書籍、PB46_00114）[動詞的動詞]

以上の用例の下線部はどれも物事の変化（またその完遂）を表している。(28) は結婚によって口座の名義を変え改めること、(29) は自動車をアジア向けの輸出の量が増えること、(30) はダムへの工事の継続状態が変化し、昭和五年にそれが完了したこと、(31) は巡回計画書の作成という状況が変化し、それが完成したことをそれぞれ意味する。名詞的名詞は一般的で抽象的变化、動詞的名詞は増減を含む抽象的变化、名詞的動詞と動詞的動詞は変化の完遂を含意することがわかる。

次に、第 2 レベルについて、グループ I では、「習う」や「練習」のような学習的認知の含意を持つ語が多い。グループ II とグループ IV では、「注意」や「用心」のような一般的認

知行為を表す語が多い。また、グループⅢはグループⅡの意味の継続であり、一般的認知行為を含意すると考えられる。実際、グループⅢでは一般的認知行為にまとめられる[決心・解決・決定・迷い]（「制定」）や[思考・意見・疑い]（「検討」）に属する漢語動名詞も出現している。これより、ⅠからⅣへ、「学習的認知行為→一般的認知行為→（一般的認知行為）→一般的認知行為」のような意味が変化している可能性があると考えられる。

- (32) 前田は家庭教師二人に来てもらって、明けても暮れても熱心にロシア語の【学習】を始めた。(特定目的・ベストセラー、OB1X_00077) [名詞的名詞]
- (33) これは、談合行為を反復して行っていた事業者に対し、従業員などに、当該行為が違法であることを明白に【認識】させ、違反行為を繰り返させないようにすることを狙った措置です。(図書館・書籍、LBj3_00128) [動詞的名詞]
- (34) このような場合には、その段階での金利や物価や交通量等の状況を適切に把握して、機構の償還状況や、国、地方の支援措置の可能性などを総合的に【検討】した上で適切に判断する、こういうことになろうかと思えます。「名詞的動詞」
- (35) 引き落とし金融機関によって違うようです。URLより【確認】して見て下さい。(特定目的・知恵袋、OC03_00008) [動詞的動詞]

以上の用例の下線部はいずれも人間の認知行為を表している。(32) はロシア語という外国語を身に付けるための学習的認知行為、(33) は違法行為をよく知る・理解するという認知行為、(34) は様々な状況をよく調べて、それ（償還計画）がいいかどうかを考える認知行為、(35) は「引き落とし金融機関によって違う」という事実をはっきり認める行為である。これより、名詞的名詞は学習的認知行為、動詞的名詞と名詞的動詞、動詞的動詞は一般的認知行為を含意することがわかる。

最後に、第3レベルについて、グループⅠでは、「書写」や「執筆」のような記録の活動と「設ける」や「準備」のような整備的活動、すなわち、具体的で細かい作業と言える活動の含意を持つ語が多い。グループⅢでは、「する」や「取り組む」、「振る舞い」のようなより日常的で頻繁に行っている一般的活動を表す語が多い。グループⅣでは、「発見」や「観察」のような視覚的活動、つまり、人間の感覚器官が外界の物事を捉え、それが何であるかを区別する知覚的活動を表す語が多い。また、グループⅡはグループⅠの意味の継続であり、細かい作業的活動を含意すると考えられる。実際、グループⅡでは細かい作業的活動にまとめられる[扱い・操作・使用]（「適用」）や[測定・計算]（「計算」）に属する漢語動名詞も出現している。これより、ⅠからⅣへ、「具体的で細かい作業的活動→（具体的で細かい作業的活動）→抽象的で一般的活動→知覚的活動」のような意味が変化している可能性があると考えられる。

- (36) 平成十三年度の典型7公害の苦情のうち、直接処理した苦情件数について、苦情の【処理】のための防止対策の有無、防止対策を講じたものについてはその内容及び対策の実施までに要した期間をみると、次のとおりとなっている。(特定目的・白書、OW6X_00357) [名詞的名詞]
- (37) 帯分数のかけ算やわり算は、帯分数を仮分数になおして、真分数と同じように【計算】します。(特定目的・教科書、OT11_00013) [動詞的名詞]
- (38) 円滑な労働移動とは、失業を経ないということだけでなく、個々の能力を充分発揮で

きるような転職先への【移動】をも意味する。(特定目的・白書、OW5X_00176) [名詞的動詞]

(39) 同見学会では、河内浦城跡公園などを見学した後、恐竜の足跡の化石を【観察】。参加した子どもたちは、市の学芸員の説明を聞きながら、熱心に【観察】していました。(特定目的・広報紙、OP95_00001) [動詞的動詞]

以上の用例の下線部はいずれも人間の活動を含意するが、(36) はどのような対策を講じるか、どのように対策を実施するかなどの具体的な作業を通して苦情を処理する活動、(37) は帯分数を仮分数になおすという細かい作業を通して帯分数のかけ算やわり算をする活動、(38) は転職という抽象的で一般的な活動、(39) は子供たちが学芸員の説明を聞きながら、化石を理解しようと自分の目でよく見るという知覚的活動である。これより、名詞的名詞や動詞的名詞は具体的で細かい作業的活動、名詞的動詞は抽象的で一般的活動、動詞的動詞は知覚的活動を含意することがわかる。

以上より、I からIVへ、つまりは名詞性の強い漢語動名詞から動詞性の強い漢語動名詞にかけて、以下のような意味拡張のパターンが存在している可能性がある。

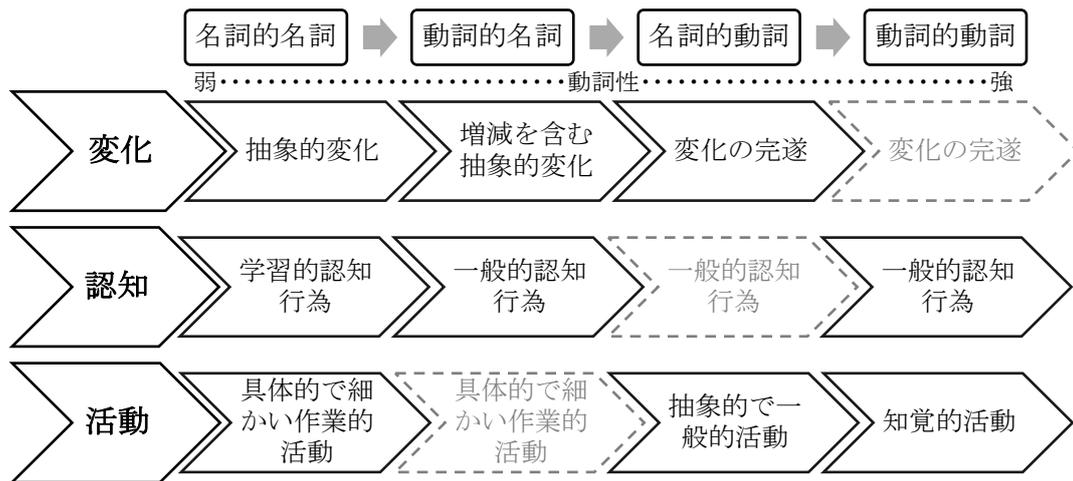


図3 品詞区分別漢語動名詞の意味拡張パターン

RQ3 からわかるように、各タイプの意味特性については重なりも多いものの、全体的に見れば、漢語動名詞の動詞性が高まるにつれて、典型的な意味が、変化、認知、活動の3つのレベルで、図3のような段階的に変化している可能性が示唆される。

5. まとめと今後の課題

以上、本研究では、書き言葉・話し言葉のコーパスデータを用い、動詞性判定テストと名詞性判定テストによって、重要漢語動名詞 200 種の品詞用法別の頻度を調査した。3 つの RQ を通して、漢語動名詞が 4 群に区分されること、それらが異なる統語的・意味的特性を有する可能性が示唆された。以下は知見をまとめた図である。

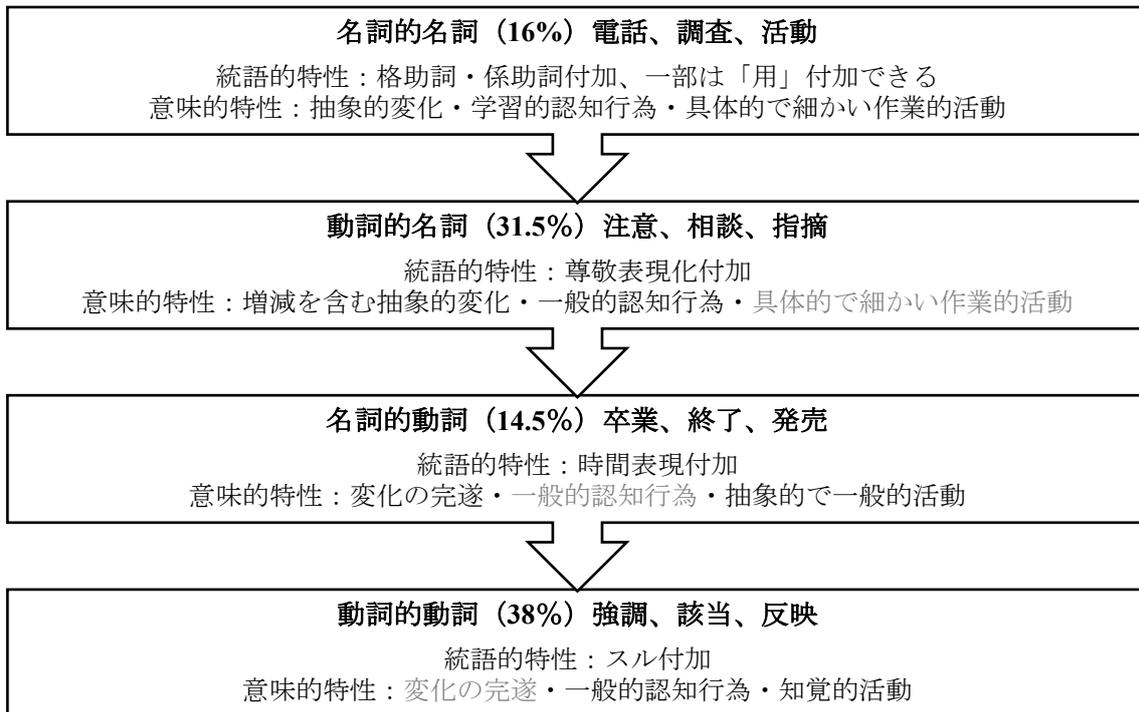


図4 名詞性・動詞性テストを統合した漢語動名詞の品詞分類の枠組み

日本語教育の観点で言えば、漢語動名詞は数も多く、体系的に教えることが難しい。しかし、本研究で得られたような分類枠を用い、グループ別の特性を理解させ、グループを代表する漢語動名詞とその用例を示すようにすれば、学習者が理解しにくい漢語動名詞の品詞用法をある程度効率的に指導できるのではないかと考えられる。

教育的援助の一例としては、本研究で得られた知見を身に着けるための学習タスクの開発が考えられる。例えば、図2や図3を提示したうえで、表10からいくつかの漢語動名詞を選択し、学習者個人で、あるいはペアによる相談で、個々の漢語動名詞がそれぞれどのグループに入るかを推測させるようなタスクを行うこともできる。こうしたタスクを通して、学習者は、漢語動名詞が一つのかたまりではないこと、品詞性と意味が混ざり合う形で、いくつかの内部的なグループに分かれることを、体験的に理解することができるだろう。

しかしながら、今回の調査には課題も多く残されている。たとえば、意味タイプの判別は筆者が単独で行ったため、母語話者の協力を得て妥当性の検証を行う必要がある。また、語構成や、語の造語年などを含めた調査も必要であろう。今後、調査の範囲を広げ、漢語動名詞の品詞性をさらに多角的に検討していく予定である。

文 献

- 石川慎一郎・前田忠彦・山崎誠 (2010) 『言語研究のための統計入門』くろしお出版。
 国立国語研究所 (2004) 『分類語彙表：増補改訂版』国立国語研究所資料集 (14)。
 小林英樹 (2004) 『現代日本語の漢語動名詞の研究』ひつじ書房。
 田辺和子・中條清美・船戸はるな (2011) 「新聞コーパスにおける二字漢語動名詞の動詞的・

- 名詞的ふるまいについて」『日本女子大学紀要文学部』 61, pp.19-32.
- 田辺和子・中條清美（2014）「日英新聞コーパス及び BCCWJ 比較に基づく二字漢語動名詞使用の分析」『日本女子大学紀要文学部』 63, pp.1-11.
- 陳迪（2022）「書き言葉・話し言葉を含む 72 変種のコーパスデータの調査に基づく「重要漢語動名詞 200」の抽出の試み」『統計数理研究所共同研究レポート』 456, pp. 21-41.
- 永澤済（2010）「変化パターンからみる近現代漢語の品詞用法」『東京大学言語学論集』 30, pp.115-168.
- 間淵洋子（2015）「二字漢語名詞サ変用法の変化—『太陽コーパス』『BCCWJ』を用いて—」『第 7 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』 pp.275-284.
- 間淵洋子（2016）「近現代漢語におけるサ変動詞用法の変化—形態論情報付きコーパスを用いて—」『国際日本学研究論集』 4, pp.17-36.
- 李楓（2014）「漢語サ変動詞の卓立性の再考—動詞形・構文形比率を手掛かりとして—」『第 6 回コーパス日本語学ワークショップ予稿集』 pp.63-72.
- 林炫情・李在鎬・宮岡弥生・柴崎秀子・趙垺熙（2012）「言語処理技術を利用した日本語学習者作文コーパスの開発」『日本文化学報』 56, pp.129-142.

関連 URL

- | | |
|---------------------|---|
| コーパス検索アプリケーション『中納言』 | https://chunagon.ninjal.ac.jp/ |
| 形態素解析ツール『Web 茶まめ』 | https://chamame.ninjal.ac.jp/ |
| 日本語学習者作文コーパス | http://sakubun.jpn.org/ |
| 『デジタル大辞泉』 ジャパンナレッジ版 | https://japanknowledge.com/library/ |